

卒業後における「本学の学び」の評価

卒業後 3 年経過時点でのアンケートから見る学生の達成と変化

2026 年 8 月
経営企画室

1. 要旨

本報告では、2022 年度に本学を卒業した卒業生を対象に行った「2026 年度 清泉女子大学『大学での学びと卒業後のキャリア』についての調査」（以下「卒後 3 年調査」）をもとに、卒業後 3 年が経過した時点で大学卒業時を振り返ったときの「学びの達成度」、本学での学びやキャリア支援の有用性、大学時代により身につけておきたかったこと、女子大学で学んだ意義、生成 AI の利用状況等をまとめ、本学のカリキュラムや学生支援の改善の参考とするものである。

卒後 3 年調査は 2026 年 7 月 10 日～7 月 31 日に実施し、対象者 447 人中 120 人から回答を得た（回答率 26.8%）。回答者の所属学科は、日本語日本文学科 25 人、英語英文学科 29 人、スペイン語スペイン文学科 12 人、文化史学科 37 人、地球市民学科 17 人であった。現在、正社員として就労している回答者は 96 人（80%）であり、そのうち 64 人（67%）は卒業後に入社した会社から転職していなかった。

結果の概略は以下のとおりである。

- 文学部 DP・学科 DP については、卒業生はいずれも概ね卒業時点で達成できていたと評価している。基本的な英語運用能力や一部の外国語・国際的能力に関する項目は、他の項目に比べて低めであった。
- 卒業後に大学・大学院や企業が提供する何らかの学習機会を利用した経験がある卒業生は 68 人（57%）であった。
- 学科の専門科目で身につけたことが仕事に「役立った」「やや役立った」とする回答は、すべての学科で過半数を占めた。
- 本学のキャリア支援全体について「よい効果があった」「ややよい効果があった」とする回答は 87 人（73%）であった。
- 在学中にもっと学びたかった内容として、会話・スピーキング、統計・AI データサイエンス、文章を読む・伝える力が上位に挙げられた。
- 女子大学で学んだ価値として、安心して自分らしく学べる環境、主体性・自立性、女性のキャリアや生き方を考える機会などが挙げられた。

2. 結果詳細

2.1. 卒業後 3 年経過時点で大学生生活を振り返ったときの文学部 DP 達成度

本学の DP は文学部 DP と学科 DP の 2 つが定められており、文学部 DP についてはすべての卒業生が満たすべきものとして設けられている（表 1）。

表 1：清泉女子大学 文学部 DP（2021 年度以前）

清泉女子大学文学部は、本学に所定の年限在籍し所定の単位を修得し、次のような知識、技能、態度、資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士の学位を授与する。

(DP1) 豊かな教養と専門領域の学芸を修得している。

(DP2) 建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを理解し、他者を思いやる人間性を持ち、奉仕的精神を持って行動できる。

(DP3) 複雑な事象を前にしても、問題の根源にさかのぼって論理的に思考を重ね、解決を目指すことができる。

(DP4) 言語等によるコミュニケーションの能力を備え、多様な立場や考え方が交錯する中でも対話を続ける姿勢を保つことができる。

(DP5) 文化の多様性を理解し、個々の文化の個性を尊重し、国際社会の中で活躍するための基本的な資質を備えている。

(DP6) 常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる。

文学部 DP について、卒業後に振り返ったときの卒業時における達成度（身に付いた・できるようになった）の自己評価を（達成できなかった:1）から（達成できた:5）までの 5 段階で尋ね、その平均スコアで達成状況を確認した。

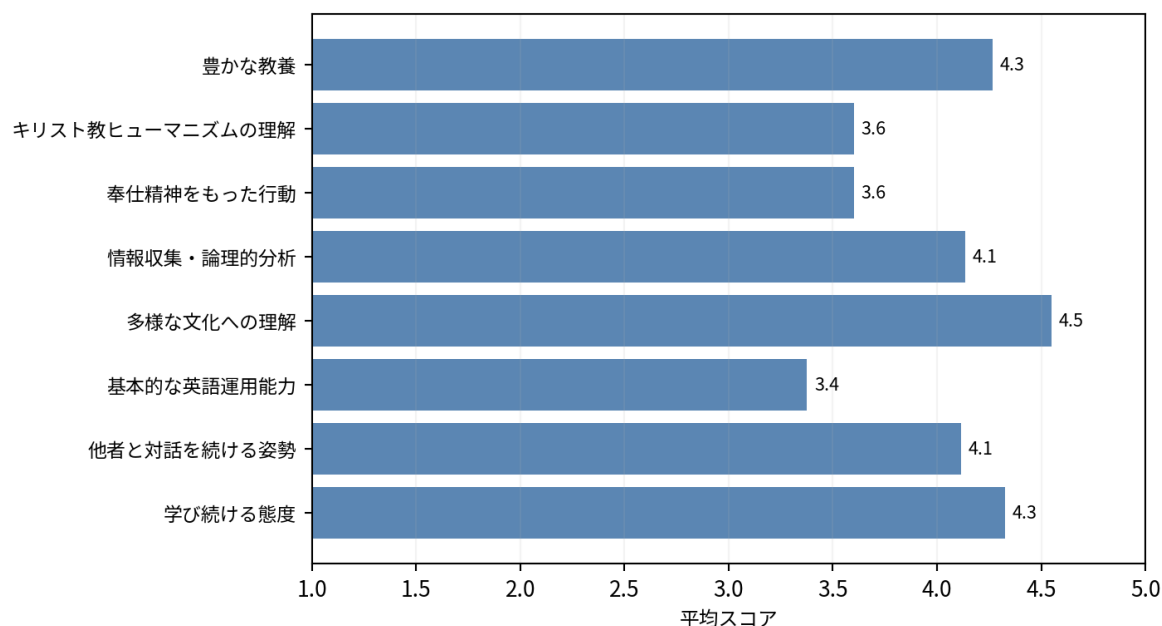


図 1：卒業後 3 年時点での「卒業時における文学部 DP 達成度」（自己評価）

全項目の平均スコアが 3 を上回っており、卒業生は社会に出て経験を積んだ時点で振り返っても、大学の学びを概ね達成できていたと評価しているといえる。とくに多様な文化への理解、学び続ける態度が高かった。一方、基本的な英語運用能力は他の項目に比べて低めであり、今後も達成状況を確認する必要がある。

2.2. 文学部 DP6 に対応する卒業後の学習行動

学習の継続は「人生 100 年時代の社会人基礎力」（経済産業省, 2018）においても重視されている文学部 DP6「常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる」について確認したところ、何らかの学習機会を利用した経験がある者は 68 人（57%）であった。

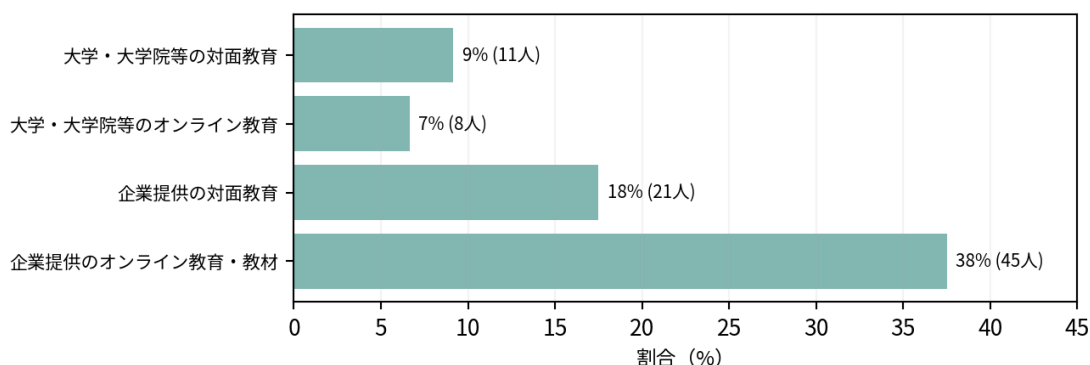


図 2：卒業後の学習状況（複数回答）

2.3. 学科 DP 達成度

学科 DP は表 3 のとおりである。

表 3：学科 DP（2021 年度以前）

●日本語日本文学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 日本語学・日本古典文学・日本近代文学の三分野において豊かな教養と深い専門的知識を修得している。
- (2) 日本語及び日本文学の知見に立って、論理的な思考力と優れた表現力を備えている。
- (3) 国際貢献の土台となる、自国の文化への深い理解を持っている。

●英語英文学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 英語運用技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している。
- (2) 英語学と英米文学を中心とした英語で書かれた文学における専門的知識を持っている。
- (3) 広い視野と深い教養を持っている。
- (4) 多様な文化への理解がある。
- (5) 国際社会に貢献できる。

●スペイン語スペイン文学科ディプロマ・ポリシー

- (1) スペイン語の基本技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している。
- (2) スペイン語で書かれた文学を学修している。
- (3) 広い視野と深い教養を持っている。
- (4) 多様な文化への理解がある。
- (5) 国際社会に貢献できる。

●文化史学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 歴史・美術史・思想史・宗教史の四つの専門分野ならびに関連分野を学修し、いずれかの分野の専門的能力を備えている。
- (2) 先入観や偏見にとらわれることなく、広い視野から専門分野にかかわる諸問題に取り組み、批判的・自律的に考えることができる。
- (3) 異文化や他者を理解し、よりよい世界の構築に寄与しようという意識をもって思索を重ねることができる。

●地球市民学科ディプロマ・ポリシー

- (1) 主体性・責任感・協調性を修得している。
- (2) 判断・批判・対話・創造・実践の各能力を修得している。
- (3) 地球社会の諸問題を国家や民族の枠組みを超えて、人類の共生という視点を理解し、解決していくことができる。
- (4) 英語等外国語運用能力を修得している。

卒業時の所属学科ごとに、各学科 DP に対応して達成度の自己評価を（達成できなかった:1）から（達成できた:5）までの5段階で尋ね、その平均スコアで達成状況を確認した。学科ごとに回答者数が異なるため、学科間の単純な比較には留意が必要である。

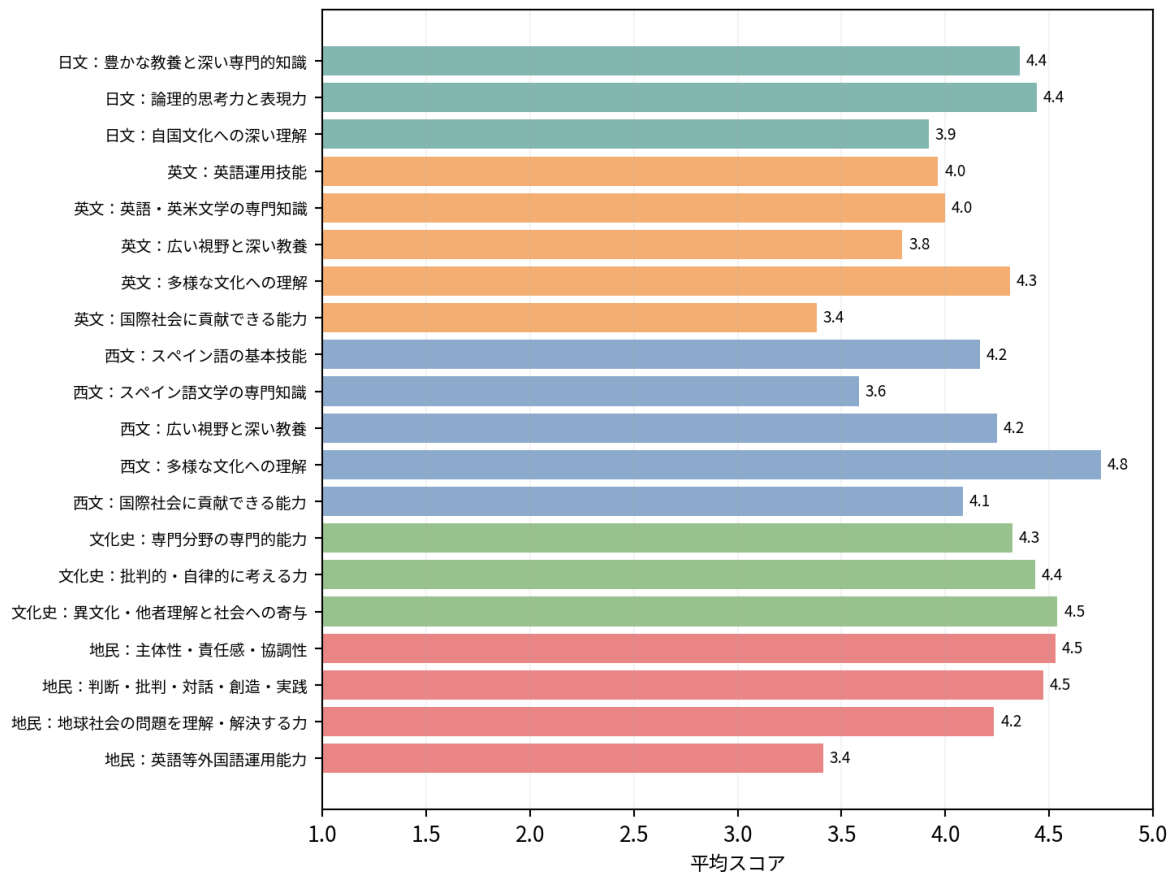


図3：卒業後3年時点での「卒業時における学科 DP 達成度」（自己評価）

各学科のすべての項目で平均スコアは3を上回った。各学科では専門分野に関わる知識・思考力や多様な文化への理解などが比較的高く評価されている。一方、英文の「国際社会に貢献できる能力」、地民の「英語等外国語運用能力」、西文の「スペイン語文学の専門知識」は、同一学科内の他項目に比べて低めであった。

2.4. 学科の学びと社会

学科の専門科目で身につけたことが、卒業後に仕事をする上で役立ったかを学科別に確認した。

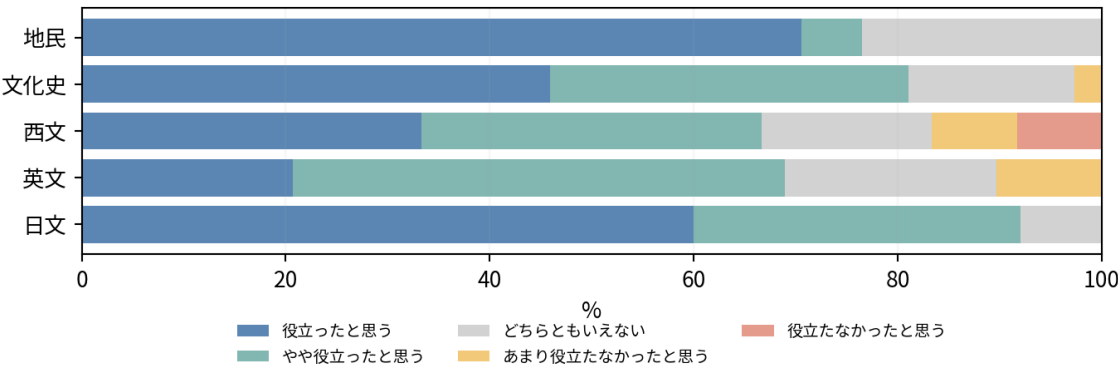


図 4：学科で学び身につけたことが仕事の役に立ったか

「役立ったと思う」「やや役立ったと思う」を合わせた割合は、すべての学科で過半数を占めた。専門の学びが仕事に直接結びつく度合いは職種等によって異なると考えられるため、学修成果と社会との接続を卒業生が認識できるようにすることも今後の課題である。

2.5. 在学中にもっと学びたかった・身につけたかったこと

本学の正課科目について、在学中にもっと学びたかった・身につけたかった内容を複数回答で尋ねた。

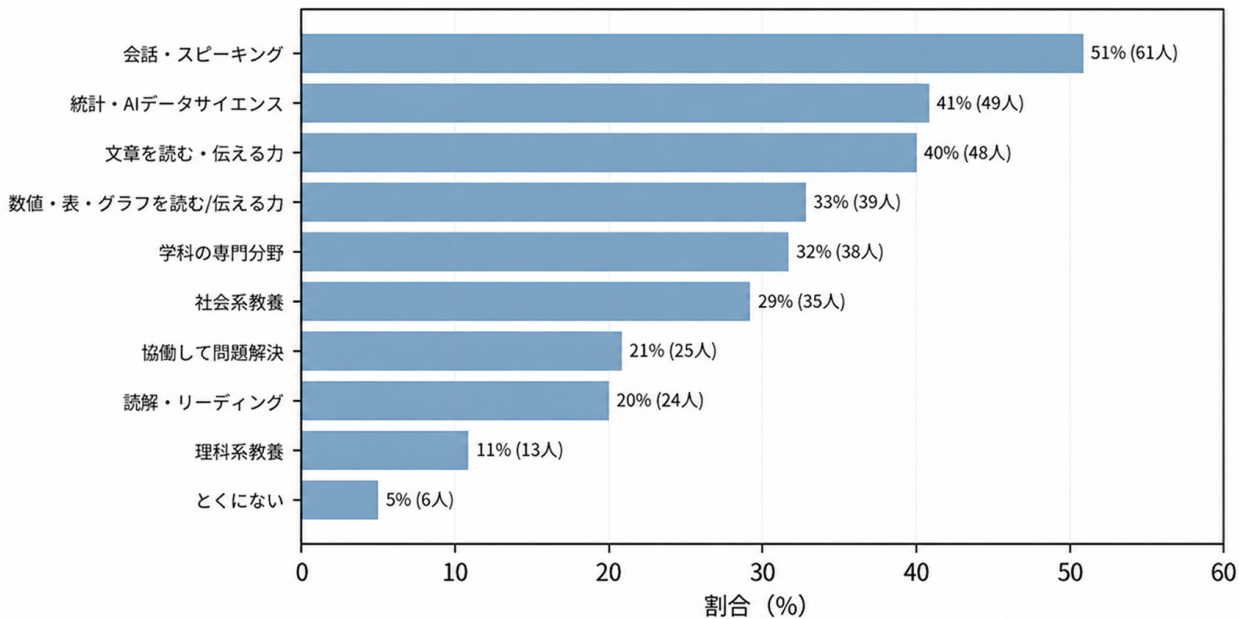


図 5：在学中に正課科目で学んでおきたかった・身につけたかったこと（複数回答）

もっとも多かったのは「英語/スペイン語などの語学（会話・スピーキング）」であり、次いで「統計・AIデータサイエンス」「文章を読む力、文章で伝える力」が多かった。語学・文章表現という本学の従来からの学修領域に加え、データやAIに関する学びへのニーズも大きいことが示されている。

2.6. キャリア支援・キャリア教育の卒業後の有用性

本学のキャリア支援全体が現在の生活により効果をもたらしたかを尋ねたところ、「よい効果があった」「ややよい効果があった」を合わせて 87 人（73%）であった。個別の授業・支援では、未受講・未参加者を除いた利用者の回答を確認した。

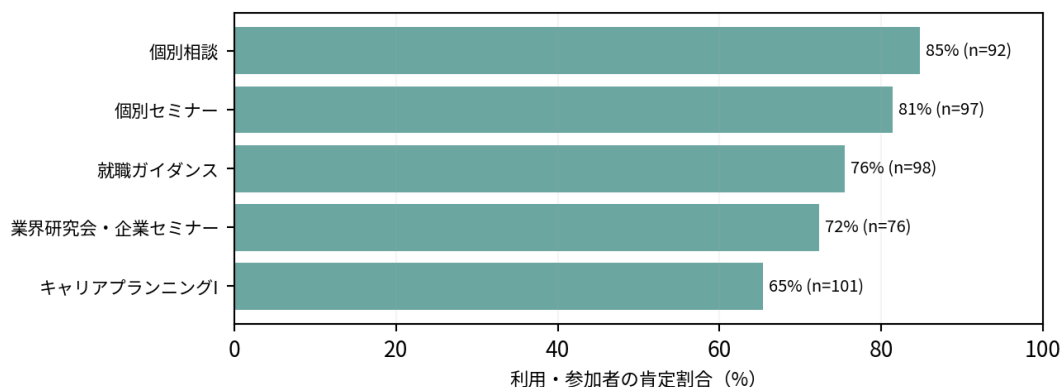


図 6：キャリア教育・就職支援のうち肯定評価の高かった取組（利用・参加者ベース）

個別相談、自己 PR・面接対策等の個別セミナー、就職ガイダンスなど、具体的な就職活動支援が高く評価されていた。自由記述では、実務的なパソコンスキル、ビジネスマナー、英語・英会話、自己分析、論理的に意見を伝える力などを在学中により身につけたかったという意見がみられた。

2.7. 女子大学で学んだ意義・価値

自由記述では、異性の目を過度に意識せず安心して発言・学習できたこと、自分たちで考え行動する経験が主体性や自立心につながったこと、女性のキャリアや生き方を考える機会が得られたこと、友人や小規模なコミュニティとの関係などが女子大学で学んだ価値として挙げられた。一方で、共学の学生や異なる背景の人と接する機会など、社会の多様性との接点を広げる必要性を指摘する意見もあった。

2.8. 生成 AI の利用状況

卒業生の生成 AI 利用状況を確認した。「ほぼ毎日利用している」56 人、「週に数回程度利用している」41 人で、回答者の多くが日常的に生成 AI を利用していた。主な用途は情報収集、資料等の作成、会話・相談であった。

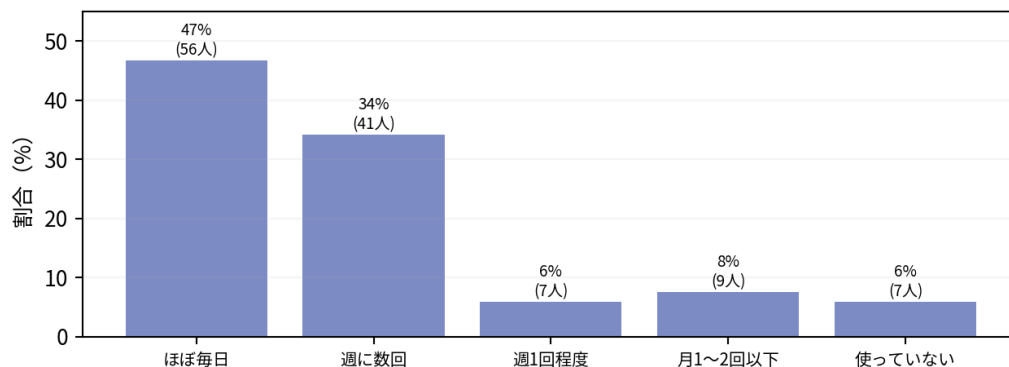


図 7：生成 AI の利用頻度

3. まとめ

卒業後 3 年が経過した 2022 年度卒業生は、文学部 DP および学科 DP について、概ね卒業時点で達成できていた。また、学科の専門科目で身につけたことが仕事に役立ったとする回答は、すべての学科で過半数を占め、本学の専門教育が卒業後の社会生活に一定の有用性を持つことが示唆された。

一方、在学中にもっと学びたかった内容として、会話・スピーキング、文章を読む・伝える力に加え、統計・AI データサイエンス等が上位に挙げられた。生成 AI が卒業生の日常的なツールとなっていることも踏まえ、語学・文章表現といった本学の強みを維持しつつ、データや AI を用いて情報を理解し、考え、表現する力をどのように育成するかが今後の検討課題となる。

また、本学のキャリア支援は卒業後から振り返っても肯定的に評価されていた。女子大学で学んだ価値としては、安心して自分らしく学べる環境、主体性・自立性、女性のキャリアや生き方を考える機会などが挙げられた。これらの結果を、今後のカリキュラムや学生支援、キャリア支援の検討材料として活用する必要がある。

なお、本調査は卒業生による回顧的な自己評価であり、回答者が卒業生全体を代表しているとは限らない。学科によって回答者数も異なるため、結果を絶対的な評価とするのではなく、教育改善に向けた論点を把握するための資料として活用することが適切である。